

決定論と近世哲学 自由について

上野修氏は、十七世紀という「哲学者たちのワンダーランド」の住人である。なかでもスピノザとはとりわけ親しい。今回、神戸学院大学人文学部を訪れて、人間に自由意思はあるのか、という問いの扉を開き、私たちがワンダーランドへ招く。迷わないよう彼の裾につかまっ、私たちがその地を踏んでみよう。

神戸学院大学人文学会 2018年度学術講演会



Thomas Hobbes



Gottfried Wilhelm Leibniz



Rene Descartes



Baruch De Spinoza

2018.11.21 (水) 15:30 - 17:00

会場：神戸学院大学有瀬キャンパス 15号館 151J 教室



上野修 (うえのおさむ)

1951年生まれ。大阪大学大学院文学研究科単位取得退学、現在、大阪大学名誉教授。専攻は哲学・哲学史。

主な著書に、「精神の眼は論証そのもの—デカルト、ホッブズ、スピノザ」(学樹書院)、「スピノザの世界—神あるいは自然」(講談社)、「スピノザ—無神論者は宗教を肯定できるか」(NHK出版)、「ドゥルーズ/ガタリノ現在」(平凡社=共著)、「〈私〉の哲学を哲学する」(講談社=共著)、「哲学者たちのワンダーランド—様相の17世紀」(講談社)などがある。